

自己評価結果公表シート

1. 本園教育目標

- ① 普遍的人格の形成を目指して豊かな情操を養い、挨拶や約束事など基本的な生活習慣を身に付ける。
- ② 集団生活の中での強調を基本とする社会性を育てる。
- ③ 運動・遊戯・園外保育及びバランスのとれた給食等を通して、身体機能の発育を促す。
- ④ 「御仏様お参り」・「絵本の読み聞かせ」・「素話」等の教材を取り入れて、集中力を養う。
- ⑤ 絵画制作などを通して創造性を伸ばし、音楽・リズム等に親しみながら音感を培う等を柱として、幼児の成長にふさわしい生活環境(人的・物的)を整え、また幼児一人一人の主体性が培われるようカリキュラムを組み、家庭との連携を密にしながら、すこやかな心身の礎を築く。

2. 本年度定めた重点目標

【重点目標】

- 認定こども園の教育・保育に関すること、教諭としての資質、教諭同士のチーム力は、自己発揮できているものと評価しているが、今後も、保育から教育への連携を大切に、より園児の成長を促すための取組に力を入れていく。
- 保護者との連携、地域との連携を推し進め、個々の子どもと保護者に寄り添った支援ができるように工夫する。
- 危機管理能力については、研修の時間の確保を工夫し、さらに向上させていけるよう積極的に機会を提供する。
- 幼稚園部門は、前年度満3歳児と3歳児を混合学級に編成したが、満3歳児のほとんどは年度途中から入園、又は保育園部から順次移動してくるので、園児数の動向を見ながら満3歳児クラスの学級編成を実施し、幼児の成長にふさわしい生活環境を整える。
- 年齢に応じた保育室の環境設定など、多機能さを備えた保育室の改修を計画的に推進する。

<乳幼児>

- ・ 母親と離れて新しい環境で過ごすことへの不安を解消し、安心安全に過ごし、楽しさを見いだせるように援助する。
- ・ 一人一人の生育歴や生活環境、個性を理解し、保育教諭の共通理解を図る。
- ・ 自立を目的とし、お手伝いを初め乳児自らが生活に必要なことを進んで行えるよう指導、援助を行う。
- ・ 排泄の自立・健康な体づくりの為に、散歩の機会を多く設け、乳児園庭だけでなく幼児園庭や公園へも出かけて体を動かす。

<幼児>

- ・ 安心感や信頼感が得られる環境の中、友だちの良さに気付き、心も体も動かして意欲的に活動するように援助する。自己肯定感がもてる子どもを育成する。
- ・ 友だちとのかかわりを深め、協同性を育む豊かな体験や活動ができる保育を創造する。
- ・ 園内環境に留まらず、近隣の地域環境を利用してより多種多様な経験ができるよう計画を立てる。
- ・ 小学校教育へのなめらかな接続を視野に、人間関係・コミュニケーション能力、規範意識等を身に付けさせる。
- ・ 基本的な生活習慣を見直し、一人一人の課題について保護者と共に見直し改善に向けて努力する。また、生活力の向上を図るため、お手伝いや運動にたくさん取り組む。

3、評価項目の達成及び取組状況		
評価項目	取組状況	評価
教育理念・教育方針に従った教育課程を編成する。	<p>本園では仏教的理念に基づいた「まことの保育」を通して、その願いを実現していくための教育理念・教育方針・教育信条が定められている。幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関係性を構築しながら、毎月教育の主題を置いて、それを月案に盛り込んで日々の保育が実践していくように示しているが、保育の現場においては、なかなかそれが具体的に実践されているとは言い得ない状況にあるとの感を否めないのが現状。その理由として考えられるのが、「主題」が仏教語であるため保育者にはすぐには理解し難いこと。またその意味を物語る言葉が、保育者に十分伝わっていないことなど。</p>	B
幼児の実態を的確に捉え、具体的な手段を講じる。	<p>子どもは、遊びの中でさまざまなことを学んでいくことから、その特性を踏まえ、保育者が子どもの経験を読み取って次の保育につなげる連続性が大切である。そのために、持続的な記録を通して日々変化する子どもの姿を丁寧に捉え、次の保育につなげることが求められる。</p> <p>具体的には、保育者が日誌・連絡帳・保育記録を整理し、幼児理解をもとに次の保育を構想し、また、保育者同士が情報を共有して保護者との連携等に生かすことができている。必然的に保育者自身の保育のあり方も振り返ることができている。</p>	A
園内研修の充実と、各研修会や研究会に参加してスキルアップを図る。	<p>保育者は、幼児教育における専門家としての確かな力量を備えることが求められることから、園の課題等に応じた効果的な研修を推進し、幼児教育の質の向上に努める必要がある。</p> <p>経験年数や課題等に応じて求められる保育者としての資質・能力を明確にし、目標に照らした効果的な研修ができるよう研修体系を整え、その充実に努めることができた。</p>	A
地域や保護者への情報発信の充実を図り、保護者の要望や意見には適切な対応と満足度の向上に努める。	<p>保護者との懇談、保育参観等を開催し、園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用することができている。しかしながら、個人情報管理に配慮して公式WEBサイトや動画配信により、園児の幼稚園での生活や行事の様子等の情報発信に努めているが、発信量については不足しているようである。</p> <p>今後、公式WEBサイト等を利用して園生活の情報発信に努め、保護者の子ども理解を深めることに繋げてゆく。</p>	B
安全管理・危機管理体制の充実を図る。	<p>保育室の改修を順次実施しているが、安全性に配慮した取り組みができている。また、月1回の安全点検を分担場所ごとに実施し、危険箇所の発見に努めている。その他、修理・修繕の必要な箇所は迅速な対応に努めることができた。</p> <p>総合防災訓練では消防署立会いの下、避難の仕方、職員の動き、消火訓練などを実施して、普段の取り組みの効果が上がっている。</p> <p>全体として、保健計画、学校安全計画等を基に、職員や園児に対する施設内での保育時はもちろん、散歩等の園外活動時の安全確保ができるために行う指導に関する取組も、マニュアルに準じて実施できている。</p>	A
認定こども園の特色を生かした保育活動の展開。	<p>0歳から5歳まで受け入れる施設として、乳幼児期の環境と関わり合う生活の中で、自己の興味や欲求に基づく具体的な体験を通して健全な心身の発育・発達を促され、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期である。そのことを踏まえ、保育者が園児の発達の特性と発達の過程を十分に理解して、その園児一人一人の発達の過程に応じて見通しをもって教育及び保育を行い、就学へ繋げてゆくことが期待されている。</p>	B
園の財務状況と積極的な公開。	<p>法人及び施設の経営状況については、監事・公認会計士により適正に運営されていると認められている。また、県や市町の監査、立ち入り調査も、特に文書をもって是正改善を指示する事項は認められていない。</p> <p>事業報告書、財産目録、貸借対照表等を作成し、常にこれを事務所に備え置いて、閲覧の請求があった場合には正当な理由がある場合を除き、これを公開するように準備している。令和6年度の財務状況は、認定こども園への移行に伴い改善方向に推移しているが、地域の少子化等は続いている。</p>	A

4. 学校評価の具体的な目的や計画の総合的な評価結果

幼稚園型認定こども園に移行して2年目、1号認定児は減少傾向にあるが、2号・3号認定児の増加傾向が顕著である。幼児保育から幼児教育、幼児教育から就学と、認定こども園の特色を生かした切れ目のない保育、教育が提供できるように、保育者のスキルアップと、在園時間が異なる多様な園児がいることを踏まえ、園児の生活が安定するよう家庭や地域、園における生活の連続性を確保し、一日の生活のリズムを整えるよう工夫してゆくことができています。

また、教職員の安全管理や危機管理意識の向上を図り、年齢に応じた保育室の環境整備などと相まって、多機能さを備えた保育室の改修を計画的に推進して、安心・安全な園環境が整えられてきている。

A

5. 今後取り組むべき課題

教職員の資質の向上	支援を必要とする子どもたち一人ひとりが、どのようなことに困難を抱えているのか、また、どのような支援を必要としているのか、理解を深め、それに教職員が寄り添い共に生きる視点に立ち、療育先とも連携をはかり、特別支援児についての理解を深めていく。
健康・安全管理	子どもの命を守る教育(火災・地震・防犯・交通安全)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように練習を積み重ねていくと共に、教職員も対応力を身につけていく。 学校安全計画、危機管理マニュアル、保健計画をしっかりと把握し、子どもの安全な園生活のための共通理解を図る。
子育て支援・未就園児クラスの充実	4月からの2歳児クラスを充実させ、子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画する。 子育て支援活動の一環として、未就園児の親子登園日を継続し、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こりすクラブ」を開催して、入園につなげていく。同時に、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、より多くの保護者に寄り添える体制作りを目指す。
組織の運営	ホームページに加えて、インスタグラムも活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にけんしん幼稚園の取り組みを知ってもらい、当園を身近に感じてもらえるように広報活動の拡充を図る。 保育後の業務に関しての時間の使い方を見直し、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身に付け、作業効率を上げる。 各分掌を明確化し、皆がリーダーシップを発揮できるような体制作りを目指す。 園舎・園庭の改修や整備事業を推進し、安心できる環境整備を推し進める。
学級編成と保育活動の展開	0～2歳児は、保育園棟から満3歳児になった時点で幼稚園棟へ移動、年少児との混合クラスに移行していたが、同じ月齢になって順次移動することになるので、新しい環境に慣れにくく、クラス運営に多少の支障が生じていた。今後、2歳児は慣らし保育を含めて幼稚園棟の保育室を利用して年度当初から移動し、幼稚園部の満3歳児と共に2歳児クラスとしての学級編成に変更。教職員間の情報の共有と連携を図る。
指導計画の編成と実践	社会の変化と保護者の願いをつかみ、園の方向性と照らし合わせてみる。 年度毎に乳幼児の実態を話し合い、1年の目標を決める。 月案・週案の振り返り、子ども達の様子を通して年間計画の見直しをする。

6. 学校関係者の評価(自己評価の結果を踏まえた評議員会/PTA代表者会/保護者アンケート等から)

全体的に幼稚園の自己評価は次の課題を見据え、更に良くしていこうとの気持ちからの評価であることが伺える。
園内の様子が少し見えにくいので、HPなどを通じて保育内容など、ある程度見える化してもらえると、保護者と幼稚園との繋がりを深めることにもなると思う。また、園内で保護者が参加、見学できる機会が増えると嬉しい。
今年度の反省点を踏まえた取り組みを来年度行うとの事なので、より丁寧な保育に繋がると期待している。
先生たちが努力して積極的に研修等に参加し、自己研鑽している姿勢は称賛したい。
地域の特性もあるので、英語保育については、積極的にカリキュラムに組み込んでいただきたい。

B